

## 第2学年 国語科の実践

### 1 単元名「お手紙」(全11時間 本時8時間目)

### 2 単元目標

- 場面の様子や、登場人物の心情を想像しながら読み、物語を楽しむことができる。
- 登場人物の行動や心情について考えたことを友達に伝え、違いを比べることができる。

### 3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」を目指すための指導の工夫

研究課題 「子どもたちが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ・・・「感じる心、素直に表現する自分」

- ・人の言動に何かを感じる姿
- ・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

#### <聴く・話すについて>

「聴く」については、相手の話を聴くことの大切さに気づきはじめ、意識して聴こうとする子どもが増えてきた。その中で、クラス全員が友達の話聴き、その意見を大事にしてほしいため、聴き方に関する掲示をしている。内容は、「目も、耳も、頭も、心も相手に向けて聴く」というものである。定期的にこの聴き方を子どもとともに確認したり、振り返ったりするようにしている。また、ただの聞くにならないように、反応をすること、もう一度言えるようにすることなどを指導している。まだまだ全体とまでは言えないが、「そういうことか」や「つまり」などの言葉を使いながら、自分の中に落とし込んで聴こうとする姿が見られることがある。しかし、相手が何を伝えたいのか考えながら最後まで話を聴くという点については、今後も指導が必要である。

「話す」については、多くの子どもが話すことに前向きであるが、なかなか話せず、黙ってしまう子もいる。人前に出て話すことに抵抗感がある子どももいるため、ペアトークを適宜行い、話すことに慣れる指導を行っている。その際には、話し始めるときに「お願いします」話し終えたときは「ありがとうございました」ということや、「まず、次に、最後に」などの順序を表す言葉を使うなど、話すことに関しての基本的なことができるように指導している。また、よい話し方をしている子どもを積極的に褒め、周りも意識できるようにしているところである。今では、多くの子どもが、順序を表す言葉を使って説明できるようになってきている。今後は、自分が何を伝えたいのかを明らかにすることや、分かりやすく伝える方法についても指導していきたいと考えている。

#### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

これまでの学習の中では、友達の意見や考えに対して、「付け足しがあります」や「別の意見があります」などという声が増えることが増えてきた。今後は、教師の指名での発言ではなく、子どもたち同士が話し合いを作っていく形を取っていきたくと考えている。また、問題について自分で考えた後に、自ら進んで友達と考え方を共有したり、困っている友達にヒントを出したりと、積極的に関わろうとする姿が見られることが多くなってきた。

国語科の物語教材としては、「ふきのとう」「スイミー」を学習してきている。どちらの学習においても、教師側で学習課題を設定し、その学習課題を解決するためにどのようなことに気をつけて物語を読んでいったらよいかということ、子どもとともに考えてきた。「ふきのとう」では、音読劇に向けての練習の中で、「もっとこうの方がいいよ」「こう読んだ方が合っているんじゃないかな」など、各グループで話し合う姿が見られ、互いに

意見を出し合いながら音読劇を成功させることができた。「スイミー」では、「作者が伝えたかったことを考えよう」を学習課題とした。この学習課題を解決するために子どもたちは、叙述をもとにスイミーの行動や気持ちを読み取ってきた。発表の際には、互いの考えを尊重しながら、作者が伝えたかったことについて話し合う姿が見られた。このような中で、互いの考えや意見にひびき合いながら学習を進めていこうとする姿が徐々に育ちつつあると感じる。

#### 4 単元と指導

##### <単元について>

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年「C 読むこと」の指導項目「ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」「カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。」にあたる。

本教材「お手紙」のあらすじとしては、お手紙を一度ももらったことがないために不幸せだというのがまくん。それを聞いたかえるくんは、がまくんに手紙を書いて、かたつむりくんに届けてくれるように依頼する。がまくんの家で一緒に手紙を待つことにするが、いつまでたっても手紙が届かない。いらいらして待つかえるくんは、とうとう手紙を出したことをがまくんに言ってしまう。それを聞いたがまくんは、感激して幸せな気持ちになる。ふたりは幸せな気持ちで玄関に座ってお手紙を待つ。四日たってやっと届いたお手紙にがまくんはとても喜ぶ。といったものである。

この物語は、四つの場面で構成され、会話文を中心として構成されているのが最大の特徴である。登場人物が三人と少なく、会話文が続く場面においても、前後の「～が言いました。」という叙述により、誰が発した言葉か捉えることが容易である。また、かえるくんやがまくんの人物像や登場人物同士の関わりは、二年生の児童にとって親しみをもって楽しく読み進めることができる。場面ごとに挿絵も多く使われており、場面の移り変わりや、人物の行動の様子、心情の変化などを絵から読み取る楽しさを味わうこともできる。

##### <指導について>

子どもたちにとって、考えてみたい・話し合ってみようと思えるような授業づくりのため、初発の感想から子どもたちが解決したい問題を作っていく。そのために、全文範読や音読をしたり、登場人物、あらすじの整理を丁寧に行ったりしていく。初発の感想では、「面白かったところ」「いいなと思ったこと」「不思議に思ったこと」「よかったところ」「みんなと話合ってみよう」「友達に聞いてみたいこと」などの視点を中心に書くようにしたい。その中で、「がまくんが悲しくてかわいそう」「かえるくんが手紙を出して優しい」「何でかたつむりくんに頼んだのだろう」といったような感想がでることが予想される。そのため、がまくんとかえるくんの心情や気持ちの変化について対比して考えるようにしたい。この対比して考える場面として、物語序盤の二人の悲しみの違い、はじめとおわりの挿絵の変化、がまくんの家での二人の様子などが該当すると考えられる。また、お手紙を届けることをかたつむりくんに頼んだことで、二人の間に幸せな時間が流れることになったということを感じさせたい。

本時で子どもたちが解決したい問題は、どうしてかえるくんは、がまくんにお手紙を書いたことを言ったのかである。これまで読み取ったことや、叙述に基づいて考えたり想像したりできるようにする。子どもたちは、今までの読みから、がまくんが手紙が来なくて悲しい気持ちが続いていること、かえるくんは手紙がまだ来ないのかとそわそわしていることに気づくはずである。このことから、意図的にがまくんにお手紙を書いたことを言ってしまったのか、それとも意図せずたまたま言ってしまったのか考えるようにする。

ひびき合いの姿としては、叙述をもとに登場人物の行動や気持ちを考え、意見交流をする中で、自分と友達の考えを比べることができる姿としたい。物語を読む際には、叙述をもとに考えていくことを年度初めから継続し

て指導している。本単元においても、登場人物の様子や気持ち、起こった出来事、がまくんとかえるくんの変化について、叙述を根拠として考えていきたい。また、前時までの学習をいつでも振り返ることができるように、学習の足跡を掲示するとともに、子どもたちの意見を書き留めたり、教師からの切り返しをしたりして、意見を全体で共有できるようにしていく。各学習時間では、ペアトークや全体交流をする時間を設けるようにする。その際、叙述に基づいているか、友達と自分の考えを比べるということを、話し合いの視点として示す。その中で、登場人物の変化、自分と友達の考えの変化に気づけるよう、学習を進めていきたい。

5 単元構想 第2学年 国語科 登場人物の気持ちや行動を比べて読み、友達に伝えよう「お手紙」

単元目標

- ・場面の様子や、がまくん、かえるくんの心情を想像しながら読み、物語を楽しむことができる。
- ・がまくん、かえるくんの行動や心情について考えたことを友達に伝え、違いを比べることができる。

(事前の学習)

「ふきのとう」では、登場人物の会話について話し合い、音読劇を行った。

「スイミー」では、登場人物の心情の変化を読み取り、心情曲線に表すとともに、作者が伝えたことは何かについて考えた。

「お手紙」はどんな話だろう？①②③

・初めて読んだ感想を書く・感想を交流して問題を作る・場面設定を確認する・がまくん、かえるくんのせりふを確認しながら音読をする

- ・がまくんはお手紙をもらったことがなくてかわいそう。
- ・何でがまくんは誰からもお手紙をもらえないのだろう。
- ・何でかえるくんまで悲しい気分になったのかな。
- ・P.16～P.17の絵が2人とも悲しそうな顔をしているね。
- ・かえるくんが、がまくんにお手紙を書いてあげて優しいね。
- ・どうしてかたつむりくんに手紙を頼んだのかな。

- ・がまくんは、お手紙が来なくて自分の家でいらいらしていたね。
- ・かえるくんが何度も窓の外を見ていて面白かったね。
- ・何でかえるくんは、お手紙を書いたことを言ったのかな。
- ・かえるくんのお手紙がとてもいい。(そのときのがまくんの気持ちはどうだったのかな)
- ・2人とも幸せになってよかった。
- ・P.24～P.25の絵が幸せな感じになっているね。
- ・4日間もお手紙が届くのを待つなんてすごいね。
- ・かたつむりくんが手紙を届けられてよかったね。

がまくんの家にいる2人の様子は違うかな？⑥

- (がまくん)
- ・ベッドに入るくらいお手紙が届かなくて悲しい。
  - ・お手紙を待っているのにあきあきしている。
  - ・お手紙が来るなんてばからしい。・お手紙が来るとちっとも思っていない。
- (かえるくん)
- ・お手紙が届くかもしれないことをがまくんに伝え続けている。
  - ・郵便受けを見たり覗いたりして、お手紙が届くのを待っている。
  - ・ずっと窓の外を見て、お手紙が届くのを待っている。

がまくんは手紙が来ずらいらいら、かえるくんは手紙を待ってそわそわしている違いを読み取る(対比)

学習感想

- ・がまくんはずっと悲しい気分だけど、かえるくんはお手紙が届くのを待ってそわそわしているね。
- ・2人を比べると、気持ちが全然違うね。

どうしてかえるくんは、がまくんにお手紙を書いたことを言ったのかな？⑦⑧(本時)

- ・がまくんが悲んでいる姿をもう見たくないから。
- ・お手紙が届くのを待ちきれずに伝えたくなったから。
- ・お手紙が届くのをがまんできなくなったから。
- ・がまくんが喜ぶ姿を早く見たかったから。
- ・がまくんを元気づけたかったから。
- ・ついうっかり言ってしまった。

今までの叙述に基づいて、2人の会話を想像したり、違いを読み取ったりする(対比)

学習感想

- ・かえるくんは優しいから言ってしまったのかな。
- ・自分だったら、かえるくんと同じように言ってしまってもいいかな。
- ・自分は、届くのを待って驚かせたいから言わないかな。

みんなの読んだ後の感想を聞いてみたい⑩

- ・はじめは、がまくんがかわいそうな話だと思っていたけど、最後には2人とも幸せな気持ちになったから、いい話だと思った。
- ・かえるくんは、がまくんのために手紙を書いたり、がまくんと手紙が来るのを待ったりして、とても優しいなと思った。
- ・自分も友達にお手紙を出してみたいな。作者は友達の大切さを伝えたいと思う。

作者の他の作品を読んでみたい⑪

- ・いろいろな作品があって面白いね。

関連作品を準備したり、紹介したりすることで、他の作品への興味を高める

がまくんとかえるくんは何で2人とも悲しいのかな？④

- (がまくん) *お手紙を待つ時間だから*
- ・今までお手紙をもらったことがないから。
  - ・誰もお手紙をくれないから
  - ・いつも郵便受けが空っぽだから。
- (かえるくん)
- ・友達(がまくん)がお手紙をもらったことがないことを知ったから。
  - ・がまくんは自分のことのように悲しくなるから。
  - ・自分もがまくんにお手紙を出していないことに気づいたから。

がまくんは手紙が来ず悲しい、かえるくんは親友が悲しんでいて悲しいという違いを読み取る(対比)

学習感想

- ・がまくんは今までお手紙をもらったことがなくてかわいそうだね。
- ・2人とも悲しい気分なのは嫌だな。
- ・だからかえるくんはお手紙を書いたのかな。

どうしてかえるくんはお手紙を書いたのかな？⑤

- 【どうしてかえるくんはお手紙をかけたのかな】
- ・がまくんが悲んでいる姿を見たくなかったから。
  - ・がまくんを喜ばせてあげたいと思ったから。
  - ・友達だからお手紙を書こうと思ったから。
  - ・自分もがまくんにお手紙を出していないことに気づいたから。
  - 【何でお手紙を届けるのをかたつむりくんに頼んだのかな】
  - ・知り合いだから頼みやすい。・誰かに届けてほしいと思ったから。
  - ・かたつむりくんなら願いを聞いてくれると思ったから。
  - ・たまたま会ったから。

かえるくんの行動から、その優しさに気づけるように読んでいく

学習感想

- ・かえるくんがお手紙を書いてあげて優しい。
- ・かたつむりくんも頼み事を聞いて優しい。・だから4日間待ったんだね。

お手紙を待っているとき、2人はどんなことを話していたのかな？⑨

- (がまくん)
- ・かえるくん、お手紙を書いてくれてありがとう。
  - ・初めてのお手紙、早く届くといいな。
  - ・とてもわくわくするね。・かたつむりくんまだまだ時間かかるかな。
- (かえるくん)
- ・がまくんが悲んでいるのを見て急いで書いたんだよ。
  - ・がまくんが喜んでくれて嬉しいよ。
  - ・かたつむりくんちゃんと届けてくれるかな。
  - ・届くのが楽しみだね。

学習感想

- ・2人とも幸せな気分で待っているね。・いろんな話をしているね

- ・時間的な順序や場面の移り変わりを考えながら読み取ることができる。(読む)
- ・場面の様子や、人物の気持ちを考えながら読むことができる。(読む)
- ・自分の考えたことと、友達の考えの同じところや違うところを考えながら、意見を聴くことができる。(聴く)
- ・叙述に基づいて自分の考えを話すことができる。(話す)

がまくんがかわいそうでも、かえるくんがお手紙を渡したのがよかった

## 6 本時について

(1) 本時目標 叙述をもとに、かえるくんがお手紙を書いたことをがまくんに言った理由について考えることができる

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>かえるくんがもし言わなかったら、がまくんはどうなっていたのかな</p> <p>・すっともやもやしていた</p> <p>・もうお手紙は来ないんだと思う</p> <p>・すっといやな気持ち</p> <p>かえるくんのやさしさのまごどうなんだね</p> <p><b>学習の感想を書こう</b></p> <p>がまくんがかなしんでほしくないから言ったんだと思う</p> <p>かえるくんはとってもやさしいんだね</p> <p>かえるくんが言ったから、うれしい気分でお手紙がとびくのをまっていたのかな</p>	<p>○本文を読む。</p> <p>○「お手紙」で学習したことを教室に掲示し、いつでも振り返られるようにする。</p> <p>○前時までにお手紙を書いたことを言ってしまった理由についてノートに書き、本時はその交流に重点を置く。</p> <p>○考えをもとにグルーピングを行い、小グループでの対話から全体交流を行う。</p> <p>○考えを板書する際には名前を書き、誰の考えか明確にする。</p> <p>○焦点化のポイント</p> <p>・かえるくんがもし言わなかったら、がまくんはどうなっていたのかな</p> <p>↓</p> <p>話し合っていく中で、かえるくんの優しさによる行動だったことに気づいていく。</p> <p>◆叙述をもとに、かえるくんのとった行動について考えている (思考・判断・表現)</p>

## 7 実践を終えて

この单元では、子どもたちの初発の感想をもとに学習問題を作った。子どもたちは、物語の時間の流れを意識しながら学習問題を解決しようとしていた。その際、叙述に基づいて考えようとしていたり、友達同士で集まり意見交流をしたりする姿も見られ、友達によって考えに違いがあることに気づくことができた。

本時の課題である「どうしてかえるくんは、がまくんにお手紙を書いたことを言ったのかな。」については、子どもたちが初発の感想で考えたいと思った問題である。どうしてお手紙が届くまで待てずに言ってしまったのかということについて、多くの子どもたちが疑問に思い、様々な意見を出し合いながら学習を進める中で、各々の考えをもつことができた。そのため、子どもの解決したい問題であったと考えられる。

(成果と課題)

### 【成果】

- ・意欲的に自分の考えを相手に伝えようとしており、様々な考えに触れる中でひびき合う姿が見られた。
- ・解決したい問題について、多くの子どもが叙述をもとにして考えることができていた。
- ・教師が意図的にグルーピングを行い、意見交流を行ったことで、全体交流の前に様々な考えに出会うことができた。

### 【課題】

- ・意図的にグルーピングを行う意見交流が今回初めてだったため、子どもの中に戸惑いが生まれ、落ち着かない環境になってしまった。
- ・子どもの中に「かえるくんは友達思いの優しい人物」という考えがすでにあり、本時で気づかせたかった考えと重複していた。

- ・子どもから質問が出た際、みんなで考える時間を取った。しかし、考えを深める中で話が逸れていくことがあったので、子どもに問い返すか否かの判断が必要であった。
- ・ノートに自分の考えを書いたが、子どもによって差があったため、個別の支援が必要であった。

